

特集

## ローカルメディアによる 地域の魅力発信

### 特集1 [兵庫県]

## 現代における文学を通じた まちづくり



城崎温泉  
NPO法人本と温泉  
片岡 大介

舞たうん  
Vol. 145

きっかけは志賀直哉来訪100周年

私たちは城崎温泉で「本と温泉」というNPO法人を立ち上げ、城崎温泉に來なければ買えない、城崎温泉オリジナルの本を作り販売を行っています。きっかけは、2013年、志賀直哉が城崎温泉を初めて訪れた大正二年（1913年）から100周年を迎える記念の年でした。

「城の崎にて」は約100年前の作品ですが全国的に知られています。全国から年間通じてお客様に来ていただく温泉地にするために、城崎温泉を「文学の町」としてもう一度現代に発信していこうという思いで、旅館の若手メンバーで城崎温泉でしか買えない「地産地読」の本を作るNPO法人を立ち上げました。

人気作家が書く城崎温泉限定の本

第一弾は、注釈付きの豆本「城の崎にて」でした。本文の約5倍のページを割いてたっぷり注釈が付けられ、注釈だけでも一つの読み物として成り立つ物が出来上がりました。掌で収まる豆本サイズは、



第一弾 志賀直哉『城の崎にて』『注釈・城の崎にて』

浴衣に入れて持運びができ、町中どこでも出して気軽に読めることを想定しています。本と温泉第一弾「注釈・城の崎にて」は2013年9月に出版し、順調に売れていき約一年間で初版700部が完売しました。現在の発行部数は7刷11,700部で

す。

第二弾

は、お風呂で読める防水の本を、城崎温泉をテーマに現代の作家に書き下ろしてもらおう、という、温泉地ならではのかなり特徴のあるものです。関西にゆかりがあり、志賀直哉の「清兵衛と瓢箪」をある雑誌で自分のおススメとして紹介されていたことから万城目学さんが候補に上り思い切ってお願したところ、特に「城崎温泉でしか販売しない」という点を評価していただき引き受けていただきました。2度の城崎滞在を経て、依頼から約1年後の2014年9月、城崎温泉のための書き下ろし本と温泉第二弾「城崎裁判」を刊行しました。



第二弾 万城目学 書き下ろし小説『城崎裁判』

「城崎裁判」は予想をはるかに上回り、約一か月で初版の1,000部が完売してしまい、増刷が間に合わない事態が発生しました。特にうれしかったのは発売当日に車で4、5時間かけて買いに来てくれた方がいたことです。本を買いに来ることが城崎温泉を知ったり、訪れる動機になり得たこと実感できた瞬間でした。それと、もう一つ大きかったのは、温泉

街の土産店や商店の人たちも巻き込むことが出来たことです。旅館の若手メンバーで始めたことが街全体に広がっていき、今では喫茶店や写真屋さんでも販売されており、取扱店舗は50店を超えています。約6年が経った現在でも売れ続けており、発行部数は7刷16,700部まで伸びています。

第三弾として2016年7月に刊行したのが、湊かなえさん書き下ろし「城崎へかえる」です。実は、湊かなえさんは毎年冬に城崎温泉へカニを食べにお越しになっており、万城目さんからそのことを聞いてご紹介いただきました。

湊さんも超人気作家です。やはりドキドキしながらの依頼でしたが、その場で快く引き受けていただきました。やはり万城目さん



第三弾 湊かなえ 書き下ろし小説「城崎へかえる」

と同じく「城崎温泉でしか販売しない」という点を高く評価していただきました。「城崎へかえる」はカニを食べる場面に多くのページが割いてあり、装丁もカニの足をモチーフにしたデザインになっています。湊かなえさんのファンの方も多く、発売から4年経過した今も順調に売れ続けており、現在の発行部数は6刷18,000部です。

### 最新作はなんと絵本！

そして第四弾として2020年2月に刊行したのが、「かおノート」「パンダ銭湯」などで知られる絵本ユニット tupera tupera の描き下ろし絵本「城崎ユノマトペ」です。これまで文学作品が続いてきましたが、幅広く本全般に関わる活動をしていきたいという思いがありました。思い切ったユニークで斬新な絵本作家で知られる tupera tupera さんにお願いしました。カラコロンと鳴る下駄の音など温泉街から聞こえる色んなオノ



第四弾 tupera tupera 描き下ろし絵本「城崎ユノマトペ」

マトペが長いジャバラの絵本に詰め込まれています。絵本に登場する城崎ゆかりの人物を探してもよし、部屋に飾ってもかわいい、子どもだけでなく大人も楽しめる絵本です。残念ながら発売後まもなく新型コロナウイルスが流行してしまっただけで本格的な販売はこれからですが、早くたくさんの方の元に届いてほしいです。

### 本と通して温泉街での滞在を豊かに

本を販売する以上、1冊でも多く売りたいのはもちろんですが、私たちの目的は、本を通じて城崎温泉を知り、訪れる人が増え、実際に本に触れることで城崎での滞在がより豊かなものになることです。

たくさんのメディアに取り上げていただき、本を買うために城崎温泉へ来たというお客様も増えてきました。本の販売を通じて温泉街の商店と業種を超えての交流が生まれ、町全体の一体感を作り出すことも出来ました。城崎温泉に行けば浴衣姿でそぞろ歩きをしながら文学の香りも楽しむことが出来る、着実にそんな町になりつつあります。町づくりは止まることは許されません。本と温泉も、第6弾、第7弾と継続していきたいと思っておりますので、今後も私共の活動を気に留めていただければ幸いです。是非一度、本を読みながら城崎温泉へお越し下さい。